



防災講習会

去る1月24日の午前中、大手公民館要援護者避難所運営委員会と深志中ブロック町会長会の共催による防災講演会が、大手公民館で開催されました。本来は前日にMウイングで行われるはずでしたが、まさかの新幹線架線事故で講師が来松できなくなり、急遽翌日リモートでの開催となりました。



「モノの防災から考え方の防災へ」。講師の天野先生は、福島大学の特任教授として教鞭をとるかたわら、一般社団法人ふくしま連携復興センター代表理事として被災者支援を調査研究している、被災者支援の専門家の方です。当日は能登

半島地震の記憶もあるせいも、急な日程変更にもかかわらず、地区内外から51名の参加がありました。

最初にテーマを見たときは、「どういう意味だろう?」と少々考え込んでしまいましたが、天野先生の写真を交えながらの分かりやすいお話を聴くうちに、終わるころにはこれまでに新聞やテレビの報道で刷り込まれていた「防災や被災者支援とはこうあるべき」というイメージを見事に覆されました。「なるほどこれが考え方の防災か」と一人納得した次第です。

興味を持った方は録画の視聴ができますので、大手公民館へ



長元坊 ちょうげんぼう

外出する時、これから不在になる家の中を見回して、電気よし、ヒーターよし、玄関の鍵をかけたことを確かめてから車に乗り、エンジンかけた途端に「あそこのスイッチ切ったかな?」と不安が頭をよぎれば、確かめたはずだと思いが、掛けることは出来なくなり、もう一度確認のために戻ります。

お問い合わせください。

最後に、最も印象的だったのは、東日本をはじめ、熊本や能登、白馬村など各地の被災地を見てきた天野先生が、「人と人とのつながり」自治会や近所の重要性を訴えていたことです。どんなにモノを備えていても、あらゆる非常時を想定し訓練をしても、災害は思わぬ方向からやってくるものです。モノや設備は無ければどうしようもありませんが、人のつながりは、どんな災害が起こっても必ず地域に残るものです。災害対策を進めると同時に、地域のつながりを維持していくことが、今後の防災対策の最も重要なテーマとなるのではと感じた講演会でした。(U・M)

先日、買い物に出掛けた時財布を忘れた事があり、この時は車の免許証入れに紙幣を入れてあったことが幸いし事なきを得ましたが、出発前に再確認したにも拘らず、大事な財布を忘れていたことに注意が及ばなかったのは脳の機能が低下してきたことの現れではないかと思えます。親しい友人や有名な建造物の名前などを話そうとした瞬間、頭の中は空っぽになり、忘れるはずのない名前がいくら考えても思い出せない。

ところが、あるとき何の前触れもなく突然その名前が頭に浮かぶことがあります、またその後も自分ではついに思い出すことが出来なかった名前もあり、そんな時はいよいよ自分の記憶力や判断力、注意力などの認知機能

が衰えてきたことを感じますが、改めて脳の機能の不思議さに驚かされます。歳を重ねるに従って脳の老化が進むと、脳細胞は毎日十数から数十万個という単位で死んでいくと言われています。こうした脳の老化を少しでも遅らせるには、文章を書いたり、絵を描いたり、手作業をしたりして脳に刺激を与え続けることが良いとされています。

現在この手指の動きと脳への刺激を兼ねたゲームとして健康麻雀が注目されています。「飲まない」「吸わない」「賭けない」というルールの下に行われる健康麻雀が各地で行われるようになりました。老化防止の一助として普及してゆくことを願っています。(K・T)

中央地区の樹木 19

なんじゃもんじゃの木 (二葉田子の木)

- ・分類: モクセイ科の落葉高木
- ・花期: 4月〜6月
- ・花色: 白色で実は黒

日本では限られた地域(木曾川流域・対馬周辺)にしか自生はしておらず、分布が飛び地のように離れているために正体がよく分からない珍木ということ



で「なんじゃもんじゃ」と呼ばれるようになったそうです。松本城のそば城西花壇の隣に二本のなんじゃもんじゃの木が植わっています。初夏になると株全体が隠れてしまうほどに細長い真っ白な花弁の花を咲かせます。それはまるで白い雪にでも覆われたかのような美しさです。



私は、野
 麦峠の麓、
 奈川で生を
 けました。
 奈川小学校
 南分校へ入
 学し、六年
 間二十六名
 の仲間と過
 ぎしました。その頃は分校が
 二つありましたが、中学になり
 ますと本校へ通うようになり、
 六十二名と仲間も多くなり楽
 しい学校生活を送りました。通
 学は自転車か徒歩で、五キロの
 道のりは今でこそ舗装ですが、
 その頃は砂利道でとても大変
 でした。

高校進学は、家からは通う
 ことは出来ませんでしたので、
 松本市内で自炊しながらの一人
 暮らしでした。今では松本まで
 一時間弱ですが、その頃は倍の
 約二時間はかかりました。

私達が生まれた時は、戦後の
 ベビーブームで子ども達も多
 く、高校になると一クラス六十
 名と教室がいっぱいでした。田
 舎から出てきた私は当初、戸惑
 うことばかりでしたが、大勢の
 友達も出来、楽しい高校生活
 を送り、卒業して市内の会社へ
 就職しました。

四年程働いた頃に主人と出
 会い結婚しましたが、婚家は父
 母、弟、妹、それに私達二人と
 とても大所帯でした。そして二
 人の子どもにも恵まれました。
 その頃はみんなの食事の世話
 等々を夢中でしたが、今にな
 れば懐かしいことばかりです。

また、嫁いで分かった事は
 代々松本城主だった戸田様の
 元でお仕えしていた武家の家
 だったことです。嫁いでからは
 義父から我が家に伝わる数々
 の古文書、武道具の保存の仕
 方等を教えてもらいました。
 息子で十三代目になります、
 先代が残した江戸時代までの
 間の貴重な品々をこれから先
 も大切にしていかなければと
 思うのですが、とても悩むと
 ころです。

今は夏に出して虫干しを一週
 間程してその後、和紙で包み、
 防虫剤・除湿剤をいれて収納
 します。この一連の仕事が私の
 役目になり五十年が経ちまし
 たが、この数年はとても大変
 になってきました。そろそろ息
 子に渡そうと思うところです。

現在は、息子家族と二世帯
 住宅に住み、地域の皆様と親
 しくして頂き、楽しい日々を
 送っています。

七十余年、楽しいことばか
 りではありませんでしたが、誰
 でもが通る道を当たり前に過
 ぎすことが出来ました。これ



新春落語会
 実行委員会は
 1月17日、落
 語家の橋家圓
 太郎さん(61、
 東京都)を招
 き、恒例の新
 春落語会を開
 きました。

橋家さんは、高齢の観客に「こ
 こでは自分は若輩者」「国宝松
 本城周辺の、清らかな湧き水に
 恵まれた地域の女性は特に美し
 い」などと挨拶し、笑いを誘い
 ました。

演目は「親子酒」と「八五郎
 出世」。飲み過ぎて失敗を重ね
 る商家の親子が、禁酒の約束を
 したが2人共守れず「顔がいく
 つもある息子に財産は譲れない」
 と言う父親。「グルグル天井が
 回る家なんかいらぬ」と応え

息子の1席と、美人の妹が殿
 に見染められ男児を出産。そこ
 つな兄も殿に気に入られ出世し
 た2席。

参加した30人は、歯切れが良
 く、声も表情も豊かに身振り手
 振りで何役も演じた橋家さんに
 盛大な拍手を送りました。

(M・M)



落語会の様子

からも健康で今まで通りに過
 ぎしていくことが出来ればと
 思います。

雪と外国人に思う

大手公民館・中
 央地区スポーツ協
 会主催の雪中ウ
 オークに参加しま
 した。1月下旬の
 小谷村の積雪深
 は膝下程度。雪
 中を歩くのはバラ
 ンスに気を使いま
 したが、前日まで
 降ったフカフカの
 新雪を歩くのは
 新鮮な体験でし
 た。そして糖度の高い雪中キ
 ヤベツを収穫。キャベツを栽
 培する井上さんに話を聴くと、
 「8月のお盆過ぎにキャベツを
 1500個植えました。今年
 は鹿の被害を受け電気柵も設
 置しましたが、この時期まで
 大きく育ってくれました。」
 松本は2月5日から6日にか
 けて25センチの雪が積もりま
 したが、小谷村では雪が降る
 のが当たり前。スキー場など
 雪が降らないと困る方々もい

ます。小谷村も松本市も冬の
 資源を活かして稼ぐことも考
 えなければなりません。

道中の白馬駅周辺には、「こ
 こは外国か？」と思うほど多
 く外国人の方が歩いていまし
 た。コロナウイルスによる行
 動制限が解除されて初めての
 冬。そして円安の影響もある
 のでしょうか。日本人は高い
 と思っても、外国の方はお金
 を出してくれるなんてことが
 起きているようです。もし、
 馴染みのお店がお金を出して
 くれる外国人向けに値段を設
 定したら…。

人口が減少している日本で
 すが、日本に住む外国人は年々
 増えています。今後公民館や
 地域でも外国人と接するのが
 当たり前になるでしょう。地
 区役員を外国人に頼るなど、
 地域での活躍の場を作ってい
 くことも地域づくりに必要な
 ことの一つです。

(ペンネーム：公民館6年生)

◆編集後記◆

今年の
 冬は雪が
 何回も降
 りました。
 おまけに重い雪。いず
 れ融けるとはいえ、隣
 近所同士で道路の雪を
 かき、世間話をする姿は、
 地域での支え合い活動
 の一つです。